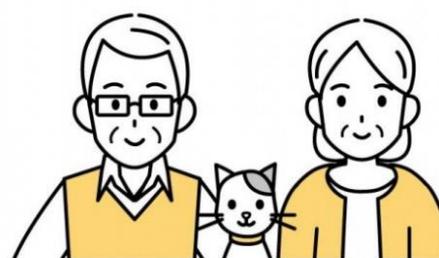
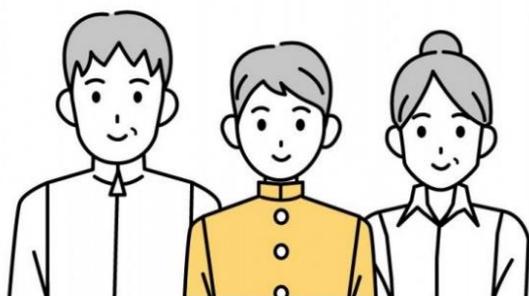


布野まちづくり計画 2023

(令和6年3月策定)



布野町まちづくり連合会

I. はじめに

少子化が言われて久しく時間が経過しています。政府統計によると、2005年に我が国の人口が1億2,777万人で頂点を迎えその後は減少に転じています。そして2050年には9,515万人となり、約25%の減少が予想され、65歳以上の高齢者は2005年の2,576万人から3,764万人へと増加し、人口の約40%を占めることが推計されています。

三次市においても、平成16(2004)年の市町村合併から20年が経過する中で、人口が6万人から5万人に減少しました。また布野町においても同様で、人口減少には歯止めが掛からず、毎年30~40人の減少が続き、出生数の低下も著しい状況です。

こうした中、布野町を維持していくためには、現実を見据えた自分たちができる取り組みを実施していくことが求められています。

過去、布野村時代には、役場が提案し村内に向けて様々な事業を実施してきましたが、市町村合併で大きくなった行政に多くは期待できません。

布野町のことは、まず布野町民が考え行動することから始まります。そして行政と連携を図りながらの事業展開が必要です。

難しい課題ですが、実施者を中心に必要に応じて関係団体・事業所等と連携を図りながら、将来もあり続けられる「布野のまちづくり」に挑んでいきます。

布野町の人口と世帯数の推移

年次	人口	世帯数
1960年(昭35)	4,027人	811戸
1970年(昭45)	2,702人	683戸
1980年(昭55)	2,395人	679戸
1990年(平2)	2,366人	639戸
2004年(平16)	2,019人	625戸
2011年(平23)	1,723人	623戸
2014年(平26)	1,628人	616戸
2017年(平29)	1,528人	600戸
2020年(令2)	1,420人	587戸
2023年(令5)	1,318人	572戸

2004年(平16)は市町村合併施行

近年の出生数の推移

※年齢別(年度別)

の人口から掲載

年 度	出生数
2011年(平23)	7人
2012年(平24)	12人
2013年(平25)	7人
2014年(平26)	10人
2015年(平27)	12人
2016年(平28)	8人
2017年(平29)	6人
2018年(平30)	9人
2019年(令元)	6人
2020年(令2)	12人
2021年(令3)	5人
2022年(令4)	3人
2023年(令5)	1人

※2023年度は見込み

II. これまでの計画の成果と課題

『布野まちづくり計画 2018』の事業総括

- 〈評価の意味〉
- 【A】 想定した成果があった
 - 【B】 ある程度の成果があった
 - 【C】 実施はしたが改善が必要
 - 【D】 実施なし又は成果無し

分野		実施事業とその評価																											
(1) 暮らしづくり	①定住化への取組み	<p>■空き家情報の収集、市バンクへの登録促進 評価【A】</p> <p>集落支援員を中心として、町内の空き家の調査や持ち主に三次市空き家バンクへの登録を呼びかけ、登録は進んでいる。また空き家の見学希望にもリアルタイムに対応し入居につなげている。</p> <p style="text-align: center;">*三次市空き家バンク新規登録 ／移住世帯（人数）の実績*</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>新規登録</th> <th>移住世帯（人数）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>～2016</td> <td>3件</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>2017</td> <td>3件</td> <td>2世帯（6人）</td> </tr> <tr> <td>2018</td> <td>1件</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>2019</td> <td>2件</td> <td>2世帯（4人）</td> </tr> <tr> <td>2020</td> <td>5件</td> <td>2世帯（5人）</td> </tr> <tr> <td>2021</td> <td>1件</td> <td>3世帯（10人）</td> </tr> <tr> <td>2022</td> <td>3件</td> <td>1世帯（3人）</td> </tr> <tr> <td>2023</td> <td>1件</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">※2023年度は見込み</p> <p>■田舎体験ができる環境の整備 評価【D】</p> <p>当初は、三次市の「おためし住宅制度」を利用しようとしたが、制度が廃止された。</p>	年度	新規登録	移住世帯（人数）	～2016	3件	—	2017	3件	2世帯（6人）	2018	1件	—	2019	2件	2世帯（4人）	2020	5件	2世帯（5人）	2021	1件	3世帯（10人）	2022	3件	1世帯（3人）	2023	1件	—
年度	新規登録	移住世帯（人数）																											
～2016	3件	—																											
2017	3件	2世帯（6人）																											
2018	1件	—																											
2019	2件	2世帯（4人）																											
2020	5件	2世帯（5人）																											
2021	1件	3世帯（10人）																											
2022	3件	1世帯（3人）																											
2023	1件	—																											

分野	実施事業とその評価
(1) 暮らしづくり ②生活支援	<p>■除雪対策の検討 評価【A】 令和4年度で市の支援で除雪機2台の整備が行われた。また布野町独自事業「地域除雪活動支援事業」を制定、互助活動を基本に、高齢や障がい等の事情で自力での除雪困難者への支援が行われている。</p> <p>■生活交通体系の継続的見直し 評価【A】 市民バスについては、民生委員等の協力により、実際の利用実態にあわせたバス路線の見直しが行われた。今後は、より利便性の高い制度（例えばデマンド型タクシー）の検討が必要である。</p> <p>■配食サービスの検討 評価【D】 布野町地区社会福祉協議会を中心に、1～2ヶ月に1回のボランティアによる弁当配達サービスが実施されている。ボランティア団体が減少し、3団体（三次社協、JA、有志）が行っている。有償サービスなども検討しながら継続できる仕組みが必要である。</p>
(2) 人づくり ①コミュニティー機能の充実 ②次世代の育成	<p>■大人の学校の開校 評価【A】 地域の多様な世代が参加しやすい講座として開設した。令和4年度からは「みんなの学校」に名称を変更、必要に応じて託児も実施しながら、幅広い世代の参加が期待できるような講座を開催している。</p> <p>■青年組織の設立及び運営支援 評価【D】 次代を担う若者層の社会参加の方法を検討したりスポーツやイベント等での企画実施等と呼びかけたりもしたが、実現に至らなかった。</p> <p>■放課後子ども教室の充実 評価【A】 学校放課後や夏休みなどの児童の安全な居場所づくりと、「体験」「学習」「交流」活動を実施した。 1年生～6年生まであわせて30名程度の年間利用が続いており、保護者からも評価されている。</p>

分野		実施事業とその評価
(3) 魅力づくり	①交流施設の充実	<p>■横谷ふるさとセンターの利用拡大 評価【C】 「YOKOTANI ワンダーランド」「学校公園」「大人の学校」などの行事を実施した。またコスプレ利用要望は年間2～3回程度あったが、基本的な利用拡大にはつながらなかった。なお本施設は、水の確保と法的な課題（用途変更）を解決することが求められている。</p> <p>■布野生涯学習センターの改修 評価【A】 築後約40年が経過したセンターは令和元～3年度で改修が行われた。空調設備のエアコン化、照明の改善、洗浄トイレ完全整備、調理室改修、キャノピー設置、外構などが整備された。</p> <p>■道の駅魅力アップ作戦 評価【C】 年間の行事としては、(株)布野特産センターで神楽公演やディナーショー的なものが実施されている。今後は、布野町の交流経済拠点として継続するため、特産センターと地域住民の連携も探りながら、幅広く展開することが必要である。</p>
	②新たな資源の創出	<p>■銀の道を活用した布野町の発信 評価【B】 各自治会による街道整備、草刈り除伐等の保全作業が継続実施されている。案内看板等の設置も進められている。保全活動の継続のためには、地元住民が街道に価値を感じられる取り組みが必要である。</p> <p>■花のまちづくり 評価【B】 タチアオイの普及を行った。奥の迫地区でのイベント「タチアオイ祭」や種の無料配布をすすめ、町内にタチアオイが咲く場所が徐々に増えてきている。</p>

Ⅲ. 新たな計画の策定

「少子高齢化」という現実を踏まえ、布野町らしさのある“地に足の着いた”まちづくりを進めます。

若い世代はもとより、定年退職者や「余生は静かな場所で暮らしたい」「家庭菜園や畑に興味がある」などの田舎暮らしを望む人を受け入れ、熟年世代を中心に、年金制度と連携した所得確保や、人口減少の中でも持続可能な地域づくりをめざします。

現計画（布野まちづくり 2018）の枠組みを活かしつつ、課題解決に向け概ね5年程度で実施する事業を計画します。

（１）計画の骨子

分野		事業
Ⅰ. 暮らし づくり	(1) 定住促進	①空き家バンクの登録促進
		②移住者との交流活動の推進
		③住宅団地の整備検討
	(2) 農地の 保全と活用	①農業者と連携した耕作放棄地対策
	(3) 高齢者等 への支援	①生活交通の確保
		②見守り活動の充実
	(4) 生活安全	①防災・減災活動の充実
		②有害鳥獣対策
Ⅱ. 人づくり	(1) 青少年育成	①コミュニティ・スクールへの参画
		②放課後こども教室の充実
		③青色回転灯防犯パトロールの実施
	(2) 地域の 絆づくり	①多世代が参加できる講座等の充実
②センターカフェの開催 ③人材バンク制度の整備		
Ⅲ. 魅力 づくり	(1) 交流活動 の推進	①道の駅等での賑わいの創出
		②神楽による地域おこし
	(2) 新たな 産品開発	①新規作物等への取組 ②「ワケアリ」野菜販売への取組

(2) 実施する事業

I. 暮らしづくり

(1) 定住促進

三次市空き家バンク登録については、集落支援員や三次市布野支所により、空き家の所有者へ向けた登録の呼び掛けを行っています。今後も住民の協力を得て、連絡情報なども聞き取りながら継続していきます。また町民に対して、空き家の活用についての情報を発信していきます。



移住された方が住み続けるためには、地域との関係づくりが必要です。集落支援員による定期的な訪問や相談対応の他にも、移住者の住む地域の中での積極的な声掛けや行事等への誘いが必要です。また農業を希望する移住者に対しては、作物づくりについての技術指導や機械の貸し出しなどの支援も行っています。

将来的な課題として、人口増加が期待できる住宅団地整備について継続的な検討を行います。

将来的な課題として、人口増加が期待できる住宅団地整備について継続的な検討を行います。

事業名	事業概要	主な実施者
①空き家バンクの登録促進	○空き家バンク制度の住民への周知と啓発	集落支援員 三次市
	○空き家物件の案内などに対応する地元住民へのインセンティブ制度の検討 ○空き家の片付け対策の検討	まち連合
	②移住者との交流活動の推進	○地域との関係づくりの推進 ○全町的な交流事業の開催と参加の呼びかけ ○農業を希望される方への技術指導や機械等の貸し出し支援
③住宅団地整備検討	○将来的な開発の可能性の検討	まち連合

※「まち連合」 … 「布野町まちづくり連合会」の略 以下同じ

(2) 農地の保全と活用

農業従事者の高齢化と担い手不足による耕作放棄地の増加が懸念されています。

これまでは、個人や営農集団等による農地の保全と活用がされてきました。しかし、現在の耕作者が作れなくなった際には、家族が身近に住んでいないケースも増え、いわゆる「歯抜け」のように耕作放棄地が増えることとなります。

現在の耕作地を守り、また地域の環境保全のためにも耕作や管理すべき農地、自然に返す農地など、農業者と土地所有者といった地域全体による管理と調整が必要です。そのため中山間地域直接支払制度や多面的機能支払交付金等と連携しながら、必要な農地を維持していくための組織の設立を進めます。

また、農業従事希望者への農地の斡旋や農業技術指導の仕組みをつくり有効活用を図ります。



事業名	事業概要	主な実施者
①農地の保全と活用	○農地の荒廃防止や有効活用を図るための運営組織の設立と運営。	農業者、団体、まち連合

(3) 高齢者への支援

布野町の公共交通は、飯南町頓原や作木町から国道54号を通り三次市街地まで結ぶ「備北バス」と、三次市が運行し町内を巡回する「市民バス」があります。

市民バスは、月・水・金曜日に運行され、1台のバスが町内を午前と午後に1回ずつ巡回しています。中村医院や瀧口歯科、農協、郵便局、市役所布野支所、布野保健福祉センター、道の駅などに市民バスを利用していくことができます。

しかしながら、限られた便数のため、次の便を待つ時間が長いこと、荒天時にバスの到着を待つことや荷物を持つての移動などが大変なことなど、利用者には決して使い勝手が良くはありません。ニーズ調査を行い、デマンド型タクシー等への移行も含め検討を行っていきます。

高齢者の見守りについては、民生委員による月1回の訪問や、2ヶ月に1回程度のボランティア団体による配食弁当サービスの配達が行われています。



これまでボランティア弁当づくりに取り組まれていた地域ボランティア団体が著しく減少しており、JA 女性部や三次市社会福祉協議会といった事業所の社会貢献に頼っている状況です。そうしたボランティア活動の継続とともに、会食会などの開催も検討し、生活の中での楽しみのある事業につなげていきます。可能な限り住み慣れた地域で暮らし続けられる取り組みとして実施していきます。

事業名	事業概要	主な実施者
①生活交通の確保	○ニーズ調査の実施と新たな交通体系の検討	まち連合 民生児童委員
②見守り活動の充実	○高齢者への民生委員による定期訪問	民生児童委員
	○配食サービスの充実、会食会の開催	地区社協 ボランティア

(4) 生活安全

近年、大雨や台風、地震といった自然災害の多発で、多くの人命が失われています。

布野町では、「自助」「互助（共助）」「公助」の視点から、住民同士で防災・減災活動に取り組めます。

布野町全体を担う布野町自主防災会と、横谷・上布野・下布野・戸河内の各地区単位に設置されている自主防災会の取組みにより、日常的に学習会や防災訓練等を行い、避難時の声掛けの普及や非常時の円滑な避難が行われるよう日頃の準備をします。

除雪については、高齢者や障がい者等を対象として、自力では自宅の入り口などの除雪が困難な方への除雪支援を行います。



事業名	事業概要	主な実施者
①防災・減災活動の充実	○自主防災会による普段からの防災 ○学習会や啓発、訓練等の実施 ○危険個所の確認 ○補助避難所等の開設運営	自主防災会 単位防災会
	○除雪活動支援事業	各自治会
②有害鳥獣対策	○クマ対策の講習会や啓発活動の実施 ○ハーブ等の効果的な植物の普及検討	各自治会 まち連合、団体

Ⅱ. 人づくり



(1) 青少年育成

布野小学校、布野中学校におけるコミュニティ・スクールには、地域住民が学校の運営に協力して、共に地域を愛する子どもの育成に関わります。

布野町まちづくり連合会が運営する放課後子ども教室は、布野小学校の放課後や夏休みなどの長期休業日に、安全な居場所づくりと「学習」「体験」「交流」を図るもので、全校児童の6～7割が参加しています。教室には、安全管理員や学習アドバイザーとしてこれまでも多くの地域の方が関わってきました。こうした活動から地域と子どもたちとの関係づくりを育み、生まれ育った故郷への愛着心につなげていきます。

青少年育成布野町民会議が実施している「青色防犯パトロール」活動は、子どもの見守りと地域防犯活動の一環であり、引き続き取り組みます。

事業名	事業概要	主な実施者
①コミュニティ・スクールへの参画	○学校と地域が連携した児童生徒の学習活動への参画	小中学校 住民
②放課後子ども教室の充実	○多様な「学習」「体験」「交流」の実施	まち連合 住民
③青色回転灯防犯パトロールの実施	○児童の下校時を中心とした地域防犯パトロールの実施	青少年育成 布野町民会議

(2) 地域の絆づくり



今日、人のつながりの希薄化が懸念されますが、安心して暮らしやすいまちづくりの推進のためには、コミュニティー（地域共同体）としての機能が維持されることが必要です。

秋祭りや「とんど」のような地域で実施されている行事、サークル活動や各種講座・教室、またイベント等の充実を図り、仲間づくりと地域連帯を進めます。

センターカフェや「布野ふるさとまつり」などの継続実施の他、協力しあえる体制づくりとして人材バンク制度の整備に取り組みます。

事業名	事業概要	主な実施者
①多世代が参加する講座等の充実	○みんなの学校講座等の充実 ○健康づくり、スポーツ活動	まち連合
②センターカフェの開催	○定期的な開催と充実	まち連合
③イベントの充実	○布野ふるさとまつりの開催 ○四季折々のイベント開催	実行委員会 地域
④人材バンク制度の整備	○有償、無償の人材の登録と活用	まち連合

Ⅲ. 魅力づくり

(1) 交流活動の推進

人の出会いや商品の販売をとおした「関係人口」の増加をめざします。

町内外の交流の拠点を担う「道の駅・ゆめランド布野」の魅力を高める取り組みを推進します。レストランや地域商品の販売の他にも、ペットと楽しめる施設の整備や各種体験、そして地域住民も協力するイベントなど、ハード面、ソフト面ともに検討し、可能なものから実施していきます。

布野町内には2つの神楽団があります。神楽は集客力の高い出し物でもあり、また団員として市外から参加される方も多く貴重な地域資源です。神楽団が継続して活動できる環境への支援を行います。



事業名	事業概要	主な実施者
①道の駅等での賑わいの創出	○ドッグカフェ、ドッグランの検討（道の駅、横谷ふるさとセンターなど） ○デイ・キャンプができる設備検討 ○地元団体と連携した季節のイベントの開催	(株)布野特産 センター 地元団体
②神楽による町おこし	○神楽団の活動支援	地元神楽団 関係団体

(2) 新たな産品開発

農地の有効活用のため、新たな産品の開発に取り組めます。

伝統野菜など、これまでに作付けされてこなかった野菜等についても、有志グループを中心に普及を図ります。現在は、黒ニンニクづくりグループが活動を開始したばかりですが、今後は、繁茂し利用価値を見出せなかった「竹」を活用した竹炭、竹酢液、消臭・浄化炭などの開発にも取り組めます。

家庭で栽培されている野菜などで、無農薬栽培などのものについては、新たな販路の開拓と集荷のしくみを検討します。



事業名	事業概要	主な実施者
①新規作物への取組	○作物の普及とグループづくり ・伝統野菜づくり（松雲寺ネギなど） ・竹の産品化の検討（竹炭、竹酢液、脱臭剤、竹細工等） ○有害鳥獣対策も兼ねる産品の検討	有志グループ
②「ワケアリ」野菜販売への取組	○農薬等が使われていない安全・安心な野菜等であって「規格外」「不揃い」といった産品の集荷と販売促進	㈱布野 特産センター 有志グループ

IV. 推進体制・実施期間

布野町まちづくり連合会内の「布野まちづくり計画推進会議」において、毎年度に事業内容の見直しや進捗状況を検討していきます。

事業の実施期間は2024年度（令和6）から2028年度（令和10）とします。

V. 布野まちづくり計画策定会議

(1) 構成団体等

No.	役職	名前	所属
1	会長	藤原 晋	戸河内自治会会長
2	委員	池上 裕章	布野町まちづくり連合会会長
3		金岡 三千男	横谷自治連合会会長
4		長田 瑞昭	〃 副会長
5		古谷 猛	上布野自治会会長
6		山根 正明	下布野自治振興区区長
7		梶原 真美	三次市社会福祉協議会布野支所長
8		森島 堅太郎	布野中学校 PTA 会長
9		中原 寿々男	布野地区民生委員児童委員協議会会長
10		升井 淳	(株)布野特産センター支配人
11		向井 慶子	集落支援員
12		竹田 恵	有志
13		才田 申士	三次市布野支所長
14		牧原 美紀	〃 支所次長
15		事務局	二本木 譲
16	中島 眞弓		〃

※上記の他、布野中学校生徒にアンケート調査を実施しています。
(結果は別添資料に掲載)

(2) 会議

〈第1回会議〉

と き 2023 (令和5) 年 10 月 18 日 (水) 19:00~
 ところ 布野生涯学習センター 2階 中会議室
 内 容 ①組織の設置、体制
 ②現計画(布野まちづくり2018)の概要と総括
 ③新計画に向けた意見交換

〈第2回会議〉

と き 2023 (令和5) 年 11 月 16 日 (木) 19:00~
 ところ 布野生涯学習センター ホール
 内 容 ワークショップ
 (計画に盛り込む事業について事業の提案)

〈第3回会議〉

と き 2023（令和5）年12月14日（木） 19：00～
と ころ 布野生涯学習センター ホール
内 容 ①前回で出された事業提案のまとめ
②布野中全校生徒からのアンケート報告
③農村型RMO（地域運営組織）の制度概要の説明

〈第4回会議〉

と き 2024（令和6）年2月7日（水） 19：00～
と ころ 布野生涯学習センター ホール
内 容 ・新ビジョン『布野まちづくり計画2023』（素案）
の検討